第二十一号　寺崎組新聞　1995年（平成7年）9月吉日（日曜日）　（隔月刊）

寺崎組新聞

発行所　寺崎組新聞社

酒屋のばあちゃん、ありがとう

第四十五回組会報告

街は暑い、いや熱い！と改めて実感させられる8月13日午後12時18分37秒。盛岡市の渋滞を抜け、あそこに見えるコンビニでつめた～いジュースでも、と思った所に見慣れた怪しい奴等がいた。そのまま見なかった事にして通り過ぎようかと大いに思ったが、そんなことはでいくの姿を見た時点で諦めローソンの駐車場へバイクを入れる。

集結したのは、取材兼用仏製タイヤのアフリカツイン組長、携帯電話をハンドルに架け、私は一般人なのよと演出している広報レイドのカメラマン沢海。エッグには無くてはならない人ボランティア2号アルテシア林と、彼に無理やり連れてこられた？ゴーゴー便セローの新人丸谷。バイトの金もバイクと装備につぎ込むパッキンＫＬＸ橋本、電装系が崩壊しつつあるＧＸ金子。いつから休みなんだバハ大工、勝手にバイクが倒れるボロバハ地下鉄、会うたんびに形が変わる作っちまったＸＲ400うなぎ。そして最後にシュラフ忘れても白ガスは持ってくるバホバホ須藤と、本っっ当によく走ってきた全てが崩壊しているぞそのセローの税金杉本の計11名。みんなヒマだなあ。

さて出発かと思いきや、いきなりの買い出し。ぬるいビールを欲しがるハズはないので、目的地はすぐ近くとみんなに見透かされる組長であった。どやどやとローソンに入り込み真っ先にビールを物色する者、真面目に夕食を考える者、地下鉄に夕食を作らせようと企む者、などなど和やかに買い出しは進むのであった。

国道4号線を北上しようとするが、いきなり通行止めの引き返し。気を取り直して出発。玉山村に入って3km程で右折、と思ったらルートミスでまた引き返し。何かいやな予感がしたのは私だけではないはずだ。

なんとか姫神山登山道に通ずる道に入るがセロー杉本がいない。暫く待っていると音だけは元気でゆっくりとやってきた。どうもクラッチが滑っているらしい。そんなんでホントによくこれたね。ダートに入ってすぐ、税金を気づかってか休憩タイム。ここで新人丸谷チョロのセローを物色する税金であった。

砂小沢の下村商店の皆様

一息ついたところで出発し、ダートの終わりから続く牧場で組長のお仕事を見学。日頃の鬱憤を晴らすかの如く何往復もさせる沢海さんであった。

仕事も終わって本日の野宿地探しとなるのだが、道が自然消滅していたり湖にぶち当たって終わっていたり、牧場の堆肥が広がる所に出たりと散々で、結局撮影現場の近くで、牧場の隅っこに決定。始めは静かな宴会であったが次第に会話がエスカレート。何故かゲロと新婚青木の話で盛り上がる。ここまではまだ良かった。やっぱりというか大工がみんなに技をかけ始める。当然新人チョロも洗礼を受ける。ここからゴーゴー便チョロ＆林対大工の死闘が始まる。技の掛け合い、酒の口移しとみせかけて毒霧攻撃。周りはよござんしゅと言って手を出さない、いや出せない。皆笑っている、やってる本人も笑ってる。まあよござんしゅ。

明けて14日、5時半頃ションベンをしにテントを出ると外は深い霧に覆われていた。組長も起き出してコーヒーを啜っている。結構肌寒く焚火が恋しい。パッキン橋本はフリースを着ている。さすがというか何というか。

実は今日私は下北半島の薬研温泉で友人と会う約束をしているので、ここでお別れとなる。この先の事は誰か代わりに宜しく。

記　うなぎ石原

■御大常林道中津川にて4日ぶりの風呂
川あがりがまたポカポカしてまた気持ち良い
■先日突然スタジオエッグは合戦場と化した
清水酒店にまで打ち入る事になってしまった
だれか助けに来ておくれ

さてさて狂乱の夜は明けて、うなぎは鼻の下を思いっ切り伸ばしまくっていそいそと、北へ向けて出発して行った。

各自のパッキングを沢海氏が撮影した後出発である。霧雨の中カッパを着ての走行となるが、路面が適度に締り埃も立たないので仲々快適である。何より蒸暑くないのが有難い。山を降りると霧は晴れ、ムッとする熱気が身を包む。橋のたもとで一服後、櫃取林道へなだれこむ。

進むにつれて路面は荒れ、横から張り出した雑草が視界を遮る。よせばいいのにＧＸを引張り出して来た小生は殆ど涙を流しながらの走行となる。組長もアフリカツイン相手に苦闘中。流水で大きく路面が抉られた現場で遂にギブアップ。250トレールのみならずもう少し無理がきくだろうが、ＧＸとアフリカツインにはこれが限界。ジタバタしながらＵターンと相成った。一度街へ降り、先ずは昼飯を買い出して綱取ダム周辺のワインディングを一っ走り。今度は税金のクラッチ滑りまくりセローが大苦戦。音は高まれど仲々前へ進まない。

やっとの思いで峠を越え、川沿いの草っ原でランチタイム。腹が落着いた所で全員パンツ一丁となり、川に飛込む。ガビガビになった頭、ネトネトになった体をリフレッシュさせるが、非常に冷たい。すっきりした体に鳥肌がたつ。

ここで組長はＴＴレイドに、沢海氏はアルティシアにバイクをチェンジ。実家へ向かう林氏が、戦列を離れる。

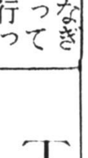
ここから早池峰山周辺を目指し、しばしの舗装路移動。Ｒ106から左へ折れて、根田茂川沿いに遡る。大迫へ抜けて買出しかと思われたが、長野峠を越えた所で路面が決壊していて引返し。もう陽は傾きかけている。ダートの入口にあった小さな酒屋での買出しとなった。食糧は缶詰めとカレー位しか見当たらない。今夜は非常食の大放出大会となるようだ。何せ組員と共に日本全国はおろか、遠くはモンゴルまで旅を続けている缶詰が随分有るようなので、たまには整理するのも良かろう。ところが我々の汚い姿を哀れに思ったのか、酒屋の一家総出で、畑でとれたてのキャベツ、ナス、キュウリ、ミョウガ、ｅｔｃを、まさに山程くれた。ただひたすらに感謝、感謝。

野菜をしこたまくくりつけ、数百メートル、ダートを引返し、道端の集材場が今宵の宿だ。一気に豪勢になってしまった食糧を前に、料理人地下鉄の腕も冴えわたる。

腹が満たされればノドが鳴る。本日の宴会は、歌合戦バージョンとなり、みちのくの空に、いつまでも酔払いの砲哮が響き渡っていた。

Ｐ・Ｓ　当初は一泊で帰ると言っていた新人丸谷（通称チョロ）は、結局三泊も付合い、めでたく東北支部長に任命されてしまった。この事が彼の人生に影響を与え、仕事を辞めて再び上京するらしい。　合掌・・・・。

ＴＷ生産中止！？



世界の名機ヤマハＴＷ200の生産打ち止めの噂は兼ねてより絶える事が無かったが、ついに本当にいよいよ…と云ふ『噂』があるそうな。

これを受けて全日本ＴＷオーナーズ協会「ざ・ＴＷ組」では、有史以来の人類が創り得た地上最高の走る芸術品を絶やすなかれと決起し、全国70か所の支部へ檄をとばして総勢七百万余の組員を総動員し、嘆願書の作成、ヤマハ発動機社長への直訴、ヤマハ本社前で「ええじゃないか」デモパレード、生産工場の占拠等々の行動あるのみ!!……云々の声は全く無く、「まぁ……仕方無いんじゃない……」とだけ。

皆、あっさりしたものでした。

24号　やな

あわや大惨事！！　うなぎの家に車が突っ込む

7月9日午前10時20分頃、それは突然起こった。おふくろが向かいにあるうなぎ屋の炭をおこしに行くべく勝手口から出ようと左足を出した瞬間、ガラスの雨と車が襲ってきた。

仕事先に兄より「事故が起きた」との連絡が入り、自宅へ急行する。真っ先に目に入ってきたのは屑鉄と化した見知らぬ車と、大破した母親のコロナであった。おふくろの姿がない。そこには取り乱す自分がいた。親父だけで無くおふくろまでも車に奪われたか。そんな思いが頭をよぎる。

おふくろは無事であった。左足をコロナと家に挟まれはしたが、他は奇跡的に無傷に近かった。

奇跡と偶然が重なった結果であった。ぶつけられた4トン車は、10時には移動している予定だった。ウチのコロナは一ヶ月程前から車庫を私のがらくたで占領されて車庫の前に止めていた。この2台が無ければおふくろは……。

私も助けられた。10時20分といえば私の出勤時間だ。しかもバイクはコロナと家の間に止めている。この日はたまたま用事があって朝から出ていた。

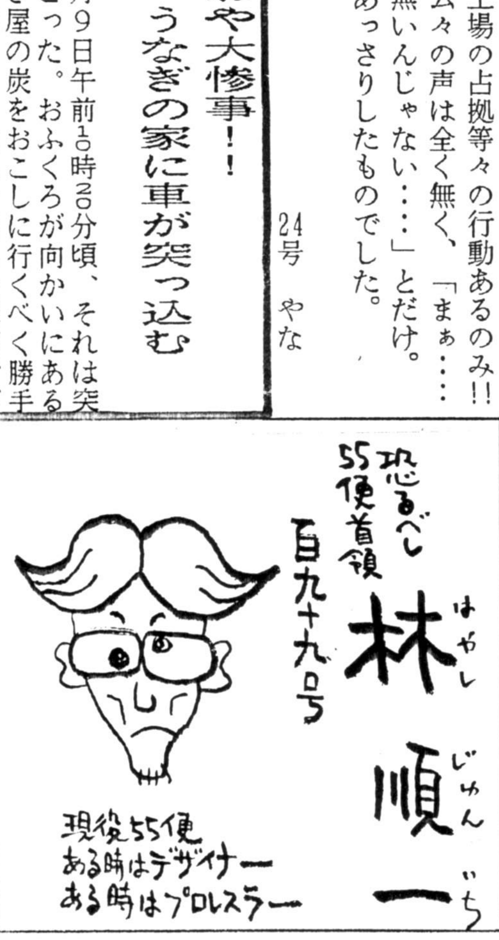
事故を起こした野郎は、地元の若い奴。20数年間走った道なのに事故をおこしやがって。現場の50メートル手前は、結構きついカーブがある。しかし80km以上で突っ込まないとこんな事故は起きない。と言うことは、脇見で突っ込みアクセルとブレーキを間違えたか。話を聞くと以前に3度ほど事故を起こしているとの事、軽四に乗っていていては危ないということで、クラウンに乗り換えたのだそうだ、まったく。

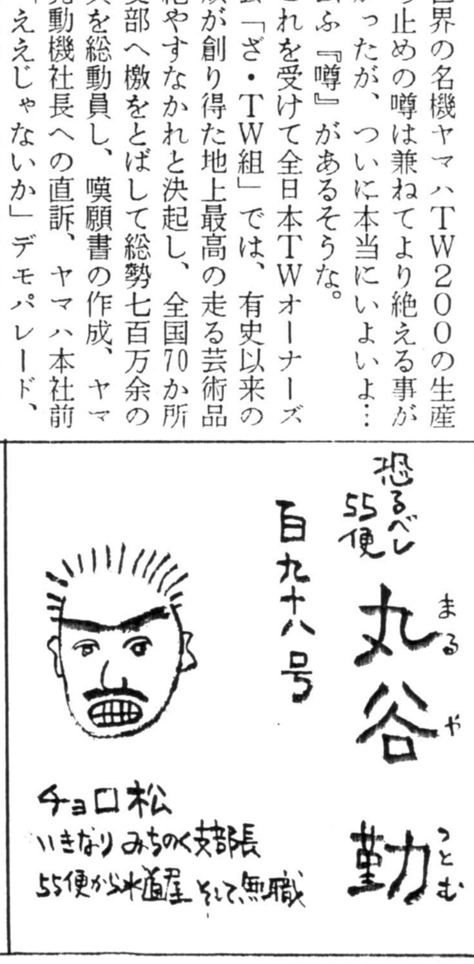
8月30日現在、家の外装も車庫の割れた棟も修復は終わり、事故の面影は見当たらなくなった。おふくろの足も無事なようだ。

記　うなぎ石原

うなぎ宅現場

今月の新人紹介（ああしょうかい）





草原、遥かなり。
第五回　寺崎　勉

五、雨

テントの中の朝、テントの薄い布地が淡くオレンジ色に染まっていた。

あわてて飛び起き、テントの外に出た。湿り気を帯びた朝の空気の中に、広がる草原と山は黄金色に光っていた。

その背後には、何か怒っているかのような黒い雨雲が一面に迫ってきている。太陽が顔を出した。空の半分は黒く、もう半分はすっかり晴れていた。

気紛れに雨が落ちてきた。黄金色の雨だ。やがて、もう半分の空が黒い雲に侵食されてゆく。

大粒の雨がどさりどさりと落ちてきた。白く霞んでゆく空の中に、島のように青い空が残っていた。

雨の中のバイクでの走行は、あまり有難くない。頬に当たる雨が痛い。カッパを着ていても、全身に当たる雨粒を感じている。

土の地面がむきだしの道は、水が浮き出し銀色に輝き始めた。

タイヤがいやらしく滑り始める。のろのろとはうようにしか進めない。

こういう起伏の無い土地の雨は、通り雨だと分かってはいてもこんな走行が一日中続いたらどうしようかという不安もよぎる。

やがて風上の方角に青空が見えてくるはずだとは思っていても、薄い青空が見えてきた時はやはり嬉しかった。

あの青空に向かって走る。あの青空に向かって突き抜けてしまえ。

雨がぱたりと止んだ。雨雲のひさしの下を通り抜けた。

輝く太陽の下に出た。グレーの世界から一転、黄色の世界になった。

空がこんなにはっきり分かれているなんて。

濡れたカッパがキラキラと輝いていた。

組会ばっくれ旅行記
北海道は涼しかった!!。

北海道から引っ越して来て最初の夏がやってきました。

暑い！ とにかく暑い！。もともと京都出身の私ですが、さすがに北海道に十一年も暮らすと、もうだめ。すっかり体は寒冷地仕様になってしまいます。暑さで朦朧とした頭で日々、思う事は『今年の休みは涼しい所へ、どこでもいい!! 暑くなければ・・・』とうわごとの様につぶやくのでありました。

話は変わって、今年の夏の野宿塾は8月12〜13日、岩手県の滝沢別れに集合になっていましたが、私の休みは14日から・・・。あっさりと塾の参加は諦めて、涼しい夏と言えば右に出るものは無いと思われる北海道へ（少なくとも私はそう思っています。）でかけることにしました。

8月14日、海水浴帰りの混雑の中、横浜横須賀道路をぬけ、首都高湾岸線をベイブリッジや、つばさ橋をお上りさんよろしく眺めながら、一路、東京有明フェリーターミナルを目指す。

今回のフェリーは千歳に住んでいた頃は、まず乗ることの無かった憧れの釧路航路。途中のコンビニで酒や食料を買い込んで、23時50分、無事船上の人と成るのでありました。

8月15日、晴天快晴の空の下、ビール片手にデッキチェアーに寝そべって酔っ払いと化す。極楽、極楽。

8月16日、7時35分、釧路フェリーターミナルに上陸。天気も薄曇りと悪くなく、爽やかな風が吹き抜け、上々のコンディションである。

釧路湿原が展望できる岩保木山をめぐるダートへとバイクを進める。久々のタイヤが土を噛む感触と、広大な景色に、なぜか思わず知床旅情を口ずさんでしまう私でした。展望台に着いて標茶方面に下り始めると何とダートは全て舗装になっていた。気を取り直して一度国道に出て、次にコッタロ湿原へ向かうダートへ入る。良く整備されており、いずれは舗装化されるだろう。コッタロ川を横に眺めながらこの景色にアスファルトの道は似合わないなと少し残念に思いながら湿原を後にした。

鶴居の町から、鶴見峠を越え阿寒国道へと抜ける林道へ向かう。ここも鶴見側から舗装化が進み、年々ダートが短くなっている。峠を越え、再び国道に出る。今日はサロマ湖の、キムアネップキャンプ場で、人と落ち合う約束をしているので、ルートを北へ取る。

相生という町から木禽岳へ向かうダートへ入る。相生側は相変わらずガレていて走りづらい。木禽岳登山口で一休みする。この木禽岳の山頂までは、バイクで入れる。そこから、津別の上里へ抜けるダートが在るらしく、某G誌に載っていて、過去に調べたが、どう見ても、登山道か獣道で、とてもバイクで走るべき道とは思えなかった。あれは、足で歩いてこそ楽しめる道だと思った。

今回の旅で、必ず寄ろうと決めていた所が4箇所ある。まず津別から津別峠へ向かう林道の途中にある道端の温泉。次に羅臼の熊の湯。3番目は、虹別林道の養老牛側終点にあるカラマツの湯。そして最後に、私がこの道（寺崎組）に手を染める原因となった、ヌプントムラウシ温泉の、以上である。

登山口をあとに山を下り、津別の町に出る。ここから、津別峠方面へひた走る。左へゲートくぐれば峠へ行くのだが、現在惜しむべき事に、全面舗装の工事中であり、ゲートは堅く閉ざされていた。しかし!!、この後にもっと私を、驚愕、落胆させる事態が、待ち構えていたのである。

先程の道を直進し道端温泉をめざす。しかしどうも様子がおかしい。道はかつての倍に拡幅され、今にも舗装されそうである。私は心の中で、『こりゃあ良い道をつけて、温泉には小綺麗な脱衣所や、休憩所なんか造っちゃって、町おこしにでも使う魂胆だな』などと思いながら更にバイクを進めると、突然景色は開け、なんとそこにはいかにも、ウッディ調だぞと、言わんばかりの、温泉ホテルが居座って居たのだった。傍らに昔、温泉井戸のあった小屋が、申し訳なさそうに佇んで居た。やれやれと、その小屋を写真におさめ、哀惜の念を抱きつつ、その場を後に、一路キムアネップキャンプ場を目指すのであった。

次号に続く・・・。

147号　自衛隊　北脇

超法規的穴埋め型風俗案内記事
「ソーミ先生のこんな店あんな店」
#2、和風スナック『道』編

『ズドドドドー』

直立二気筒　四〇〇ccの排気量を持つ黒い野獣は吠えた。

都会のビルの谷間に別れを告げる。

右に競馬場、左にビール工場、

この道はやがて上野原、夜空に続く。

山梨県北都留郡上野原町・・・。

都会で疲れた心を癒すのに、程よい距離だ。

インターチェンジを抜け、つづら折れの坂道をリーンウィズでやり過ごす。

やがて、鮎釣りの釣り人で賑わう川沿いの桜並木をぬける。

右に消防団、左に火の見やぐら

この道はやがて沢海邸、玄関に続く。

道の灯が、やがて瞬きだす。

和風スナック『道』の灯よ・・・・・

山のお寺の鐘が鳴る。夜のとばりの、

刹那粋。飛んで火に入る夏の虫。

飲めぬお酒が、ああ〜胸にしむ、

ああ〜胃にしみる。

今夜も貴方の横腹を、見ては肝臓が痛むのよ〜。

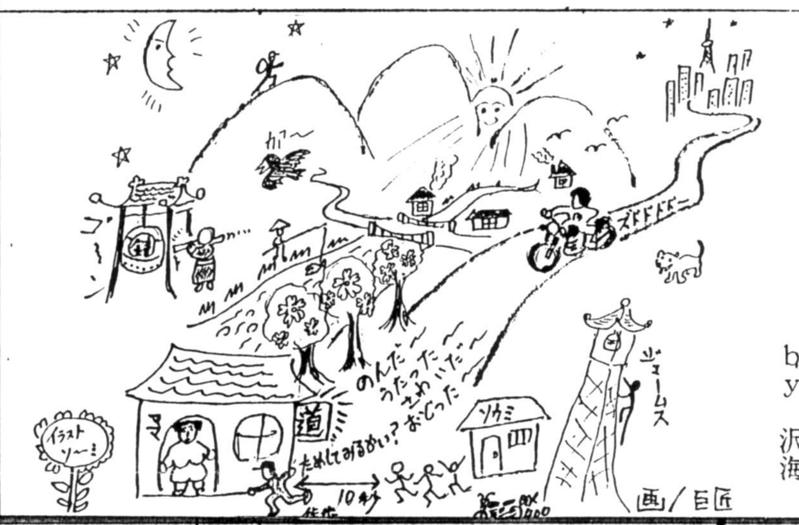
折れた煙草の吸殻で、貴方の肺癌が、わかるのよ〜。

ああ、ああ〜、ここは山梨！上野原ブルースよ〜。

料金

6人でボトルはオールド、チャームは粉ふき芋、もやしっぽい物付き、飲んで、歌って、踊って、騒いで、7千円だったかなあ〜。みんな！ためしてみてねっ!!

by　沢海



はずかしい話

寺崎組新聞を読みながらメシを食う奴はまずいないと仮定して話を進めよう。

人間の欲求の一つとして食事が上げられるが、それと密接に関係する排泄行為は忘れてはならない。我々野宿者は、それらを野外で行ない自然に返し植物を育てる一翼を担っている。

そこで、今回はその排泄についてのはずかしい話をしよう。これは、小学校で「うんこ」をして友達にバカにされた事とは訳が違う。

症例1■塩那道路塩原側にある木の葉化石公園での出来事。その日は日帰りツーリングであった。朝、矢板のコンビニで朝メシを喰い、塩原に着く頃には腹はマックシェイク状態、塩原は温泉街であり「クソ」をする場所もなく、冷汗タラタラ。「そうだ木の葉公園だ」本能のままに便所へどーっと。自分は下痢をしている時、すぐに出すのではなく我慢し、放出時に生きている喜びを楽しむ事を常としている。（Mではない）その時、戸を開いた奴がいる。それはネーチャンだった。（姉ではない）キャーとドアは閉めたが、勢いあまって全開状態で行ってしまい、衆人のいる中で中国式排泄・・・。

教訓「ドアのロックはかけるべし」

症例2■友人数人と富士にて野宿、朝メシを喰い、朝のおつとめへ。眼前には雄大の富士山がそびえ、富士見グソでも決めるべく急な斜面を登り、儀式開始。その時の体勢は、前に富士、背を下り斜面に向けており、手には滑落防止のため小枝を握っていたが、その小枝が折れた。バランスを崩し斜面を転がり落ちた。尻を出したままだったので傷つけてしまい、帰りはシートに座っているのが辛かった。**教訓**「足場はきちんと確保するべし」

症例3■とある林道の片隅、朝の儀式をするべくズボンを降ろす。生きている事を実感する時。股の間から茶色いものがニョロニョロと。自分としては、こんなに長いウンコをした覚えはない。そいつは、でっかい青大将だった。ズボンを上げる間もなくその恰好のまま10メートル位走り、立ちつくす。なんと情けない姿。トレペも投げ捨ててしまい、尻も拭けず、その姿のままトレペを探す。一人旅でつくづく良かった。**教訓**「ヤブをうろついてヘビを出してはいけません」

汚ない話で読者諸兄には大変申し訳なく思っている。でも誰だってウンコするんだよー。日常においてルーチン化しているこの行為も、こんな教訓があれば楽しいと思わないかい？

（136号ナース改めウンコ青木）

新聞購読料振込み先変更のお知らせ

新振込み先　郵便貯金

記号

番号

氏名　寺崎　勉

住所

寺崎組

（年間2000円以上 お振込み申上げます）

編集後記

大工■バーチャファイターより生がいい。

地下鉄■最近エッグ料理人が変わって良かった。

金子■右のワープロは私が2時間かけました。

税金■雨だしヒマだしゲーム会するか。ぷラリの新しいTVがほしい

柳沢■ブルーレットとトレペと蚊取り線香の御用命は私に

毎日■食う米もガソリンも無くてとうとうザリガニ食

北脇■留守電は『ごきげんいかが』に決まってるだろ

チョロ■岩井さんちのゴムホース♪♫♪

沢海■誰だオレの新聞カブト折てるやつは

青木■油断してると夜中にFAXするぞ

うなぎ■下北の思い出はヒ・ミ・ツ

林■清水のオバサンはおつぼね様ですよ

組長執筆中雑誌

○ダートスポーツ　造形社　毎月24日発売

○バックオフ　フィルード出版　不定期　毎月6日発売

○オートキャンパー　八重洲出版　毎月15日発売

○サイクルフィールド　山海堂　組長隔月　毎月20日発売

○CCV　大日本絵画　季刊　秋号10月末発売

組長単行本

「バイクキャンピング」　おもしろい　山海堂　絶賛発売中！

平成七年度寺崎組宴会地

塾＝9月23日12時集合　岐阜県坂下町坂下駅前

宴＝11月25日正午より　東京都奥多摩町倉戸山頂上

宴＝12月23日正午より　山梨県韮崎市小武川上流　甘利山青木鉱泉分岐近く

宴＝2月24日正午より　群馬県利根川河川敷　エンデューロ大会

「原稿大募集のお知らせ」

良い子も悪い子も寺崎組もその予備軍も自分らしさを原稿で写真でマンガで自分だけの表現でしてみませんか？

送り先は左記

〒一八五

東京都国分寺市東元町3〜29〜7

スタジオエッグ寺崎組